

優秀賞

一般建築物の部

～内外共に優れて快適なワークスペースとして
改修された大規模な研究所～

建築主：三井化学株式会社
設計：洲崎洋輔建築設計事務所
+ 株式会社アクシス+ MTDO inc.
施工：株式会社バウハウス丸栄
所在地：袖ヶ浦市長浦580-32

三井化学 袖ヶ浦センター リニューアルプロジェクト



食堂外観[夕景]

日本有数の規模で先進的な高分子・合成化学材料等を開発し取り扱う、総合化学メーカーの研究所である。かつて35年前袖ヶ浦に完成した同研究所だが、今回リニューアルプロジェクトとして本格的に改修された。敷地面積237,100㎡、建築面積2,200㎡、延べ面積1,800㎡に及ぶ低層で大規模な本施設だ。建物の老朽化による問題点や、現代的なワークスタイルにそぐわなくなった課題を前にして、特に内外空間の繋がりに対する改修が求められた。その一方で、時と共に成熟した外部環境による「建築と環境」がのびやかに広がり、均衡のとれたその風景をより良く守ることも肝要であった。

都心ではなかなか体験し難いこのような解放感ある袖ヶ浦のパブリックスペースを、これからも良好に継承するため、今回の改修にあたり既存建築の特徴的な水平に広がる開口部を注目した。そして、主に天井面の仕上げを質感のある素材で構成し、利用者

が内外で五感に連続する空間体験ができるように計画した。実際、現在はリーダーを中心として社員により快く利用されている。

また、今回の大規模な改修にあたり、工期を数回に分けた細やかなローテーションを実施した。それによって、関係者による空間理解度を徐々に深め、実際に体験した利用者の意見を汲み取り「みんなの研究所」のあり方を探求できる「サステイナブルな改修」と言えるようになった。さらに、たまたま車椅子での見学を余儀なくされた審査員の一人にとっては、大変心地良いサポートとバリアフリーを実感できたことは、とても印象的であった。（岩村 和夫）



食堂B多目的スペース想定[内観]



食堂Aカフェ個人スペース[内観]

(撮影全て:中山保寛)